

再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：前佛 和秀

事業名	一般国道17号 <small>あげおどろ</small> 上尾道路		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	白： <small>さいたまけん</small> 埼玉県さいたま市西區宮前町 <small>にしくみやまえちやう</small> 至： <small>さいたまけんおけがわしかわたや</small> 埼玉県桶川市川田谷			延長	11.0km	
事業概要 一般国道17号は、東京都中央区を起点として、さいたま市、前橋市等の主要都市を通過し、新潟市に至る延長約370kmの主要幹線道路である。 上尾道路は、一般国道17号の交通混雑緩和と圏央道へのアクセス向上を目的とした延長20.1kmのバイパス事業で、当該事業区間は圏央道以南の延長11.0kmの区間である。						
H2年度事業化	S44年度都市計画決定 (H1年度変更)	H9年度用地着手	H14年度工事着手			
全体事業費	約1,211億円	事業進捗率 (令和2年3月末時点)	約96%	供用済延長	11.0km(暫定)	
計画交通量	38,100~54,400台/日					
費用対効果 分析結果	B/C : (事業全体) 1.4 (1.4) (残事業) 2.6 (4.5)	総費用 : (残事業)/(事業全体) 564/2,489億円 (事業費 : 494/2,356億円) (維持管理費 : 70/133億円)	総便益 : (残事業)/(事業全体) 1,451/3,445億円 (走行時間短縮便益 : 1,234/3,108億円) (走行経費減少便益 : 172/286億円) (交通事故減少便益 : 45/51億円)	基準年 : 令和2年		
感度分析の結果 【事業全体】交通量 : B/C = 1.2~1.5 (交通量 ±10%) 【残事業】交通量 : B/C = 2.3~2.8 (交通量 ±10%) 事業費 : B/C = 1.4~1.4 (事業費 ±10%) 事業費 : B/C = 2.4~2.8 (事業費 ±10%) 事業期間 : B/C = 1.3~1.5 (事業期間 ±20%) 事業期間 : B/C = 2.3~2.8 (事業期間 ±20%)						
事業の効果等 (1) 交通混雑の緩和、円滑化 ・上尾道路整備前の国道17号並行現道（宮前IC～箕田交差点）の損失時間は、287.5千人時間/年・km。 ・I期・II期区間整備後は、損失時間が146.9千人時間/年・kmとなり約49%減少。 ・上尾道路の全線4車線整備により、交通が転換し、国道17号現道の交通渋滞の緩和が見込まれる。 (2) 周辺道路の交通量の減少 ・平成28年4月に、上尾市小敷谷～桶川市川田谷間の4.7kmが開通し、11.0km全線開通（一部2/4車線） ・上尾道路の全線開通により、並行する生活道路の交通量が約27%減少し、うち大型車交通量が約45%減少。 (3) 圏央道へのアクセス向上 ・上尾道路の全線開通により、国道16号と接続する宮前ICから圏央道の桶川北本ICへの所要時間が35分から20分に大幅に短縮し、圏央道へのアクセスが向上。						
関係する地方公共団体等の意見 ・埼玉県知事からの意見 上尾道路は、首都圏と上越地方を結ぶ国土の大動脈である国道17号の一部であり、圏央道へのアクセス向上や国道17号現道の慢性的な渋滞緩和を図る上で非常に重要な道路です。 平成28年4月に上尾市から桶川市間が一部暫定区間を含むものの全線開通し、さいたま市方面から圏央道桶川北本ICへのアクセス性が向上しました。 引き続き、全線4車線化に向けて、江川地区の貴重な湿地環境の保全対策を実施しつつ、コスト縮減に十分留意し、早期完成に努めていただくようお願いします。 ・さいたま市長からの意見 国道17号上尾道路につきましては、慢性化している国道17号現道周辺の交通混雑の緩和や沿道環境の改善に寄与し、また地域間の道路網を担い、都市の骨格をなす幹線道路として認識しているところです。 国道17号上尾道路の全線開通により、さいたま市から圏央道へのアクセスが向上され、より一層の経済発展に大きく貢献されるものと期待しております。 国道17号上尾道路については、さらなる渋滞の緩和と利便性の向上のため、全線4車線化に向けて引き続き整備継続頂けますようお願い申し上げます。						
事業評価監視委員会の意見 事業の継続を了承する。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・平成22年3月に圏央道（川島IC～桶川北本IC間）5.7km、平成23年5月に圏央道（白岡菖蒲IC～久喜白岡JCT間）3.3km、平成27年10月に圏央道（桶川北本IC～白岡菖蒲IC間）10.8kmが4/4車線で開通。 ・桶川都市計画道路川越栗橋線（川田谷工区）は、平成21年7月に開通。						

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成2年度事業化、用地取得率99%、事業進捗率96%（令和2年3月末時点）。
- ・平成21年度：さいたま市西区宮前町～上尾環状線間延長4.2km(2/4)部分開通。
- ・平成21年度：川越栗橋線～桶川市川田谷間延長2.1km(2/4)部分開通。
- ・平成27年度：さいたま市西区宮前町～上尾環状線間延長4.2km及び川越栗橋線～桶川北本IC間延長1.2km 4/4車線開通。
- ・平成28年度：上尾環状線～さいたま鴻巣線間延長0.3km4/4車線開通。
さいたま鴻巣線～川越栗橋線間延長4.4km(2/4)部分開通。
- ・今後は、2/4車線区間を4/4車線化に向けて引き続き工事を実施。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・江川周辺の環境保全対策による用地取得、希少植物の移植、浄化施設設置等の追加により、事業費約58億円増額。
- ・環境保全対策の追加により事業期間5年延伸。
- ・上尾道路全線4車線の開通による効果を早期に発現するため、2/4車線区間を4/4車線化に向けて、引き続き拡幅部分の用地取得、工事を実施。

施設の構造や工法の変更等

新技術の積極的な活用等により、コスト縮減に取り組む。

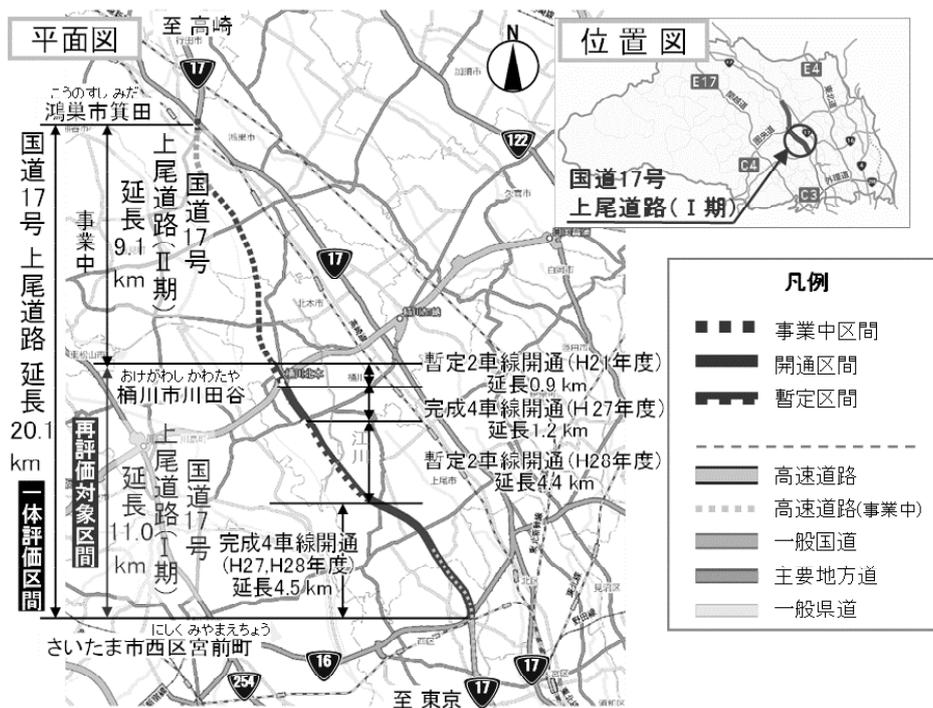
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。